

長野



長野ガーフー永明 永明ゴール前で必死にボールを追う選手たち (松本市のアルウィンで)

長野ガーフ初優勝 全国大会へ

全日本少年サッカー 県大会

第33回全日本少年サッカー大会は21日、松本市のアルウィンで準決勝、決勝計3試合が行われ、決勝では長野ガーフ(長野市)が永明(茅野市)を破り、初優勝した。長野ガーフは、8月1日から福島県の下ノ伊弉志などで開催される全国大会に県代表として出場する。

初優勝を懸けた両チームの戦いは、延長戦までもつれる大接戦となったが、攻守の切り替えに勝る長野ガーフが悲願を果たした。開始直後は両チームとも攻めあぐんだが、前線からの早いプレスとショートパスで長野ガーフが徐々にペースをつかみ、フリーキックやコーナーキックで好機を作った。

▽準決勝

永明	1	0	1	0	0	0	0
南箕輪	0	0	0	0	0	0	0

▽決勝

長野ガーフ	3	2	0	0	0	0	0
永明	0	0	0	0	0	0	0

(PK5-4) 川

後半は一進一退の攻防となり、互いにゴール前に迫るものの、ボールがゴール枠を越えるなど決め手を欠き、延長戦へ突入。延長前半2分、長野ガーフは佐藤からの縦パスをほぼ中央で受けた土倉がシュートを決め、待望の先取点。最終盤の永明の反撃を堅守で振り切った。

永明はカウンターからチャンスを作り、キーパーと

「チームのために決めたかった」。決勝点を決めた長野ガーフの土倉通選手(長野市立大豆島小6年)は、照れた笑顔を見せた。小2で友人から誘われてサッカーを始め、小4でレギュラーとなった。チームではボランチャやトップを任

1対1に持ち込むなど果敢に攻めたが、最後までゴールを割れなかった。長野ガーフ・山口侑汰主将「とにかくうれしい。準決勝直後の決勝だったのでみんな少し疲れていて、序盤はガーフらしさが出せなかった。でも、延長戦から徐々にペースがつかめてきて、1点入った時は本当に皆で喜んだ。ボール回しなどの技術を磨き、全国大会では優勝を目指す」。長野ガーフ・宮沢健治監督「厳しいプロテクトから勝ち進み、よく頑張ってくれた。決勝点を放った土倉は、良いタイミングで飛び出してくれた。全員で守り、全員で攻撃するスタイルが生かされたのも良かった。全国大会はレベルが高いので、とにかくこれからじっくり考えたい」

決勝点決め笑顔

「チームのために決めたかった」。決勝点を決めた長野ガーフの土倉通選手(長野市立大豆島小6年)は、照れた笑顔を見せた。小2で友人から誘われてサッカーを始め、小4でレギュラーとなった。チームではボランチャやトップを任

され、ピッチを駆け回って前線にボールが入るよう心がけている。目標にしているのは元イタリア代表のトッティ選手。リリーアップがあり、点も取れて、パスを出せるところが魅力だという。全国大会ではトッティ選手のようなプレーで「優勝を目指したい」。

▽主催 日本サッカー協会、日本スポーツ少年団、読売新聞社▽後援 日本テレビ放送網、テレビ信州、報知新聞社、県教委、大田市教委、上松町教委▽特別協賛 北陸コカ・コーラボトリング、YKK、花王協賛 日清オリオケル、セビオ